



力が、近くに水のない山や住宅地で発生するのはなぜなの

夏の力は、10日ぐらいで親になる

力の幼虫が、ボウフラであることは知っていますね。力は、種類によって少しちがいますが、たいいてい、水面に卵を産みます。夏の気温が高い時期は、卵から羽化するまでの時間がたいへん短くてすみます。卵は1～2日でボウフラになり、1週間でさなぎになり、1～2日で、さなぎから親になってしまいます。ですから、10日間ほど、水がある所があれば、力は発生できます。

あちこちにある水たまり

山では、木のくぼみ、岩のくぼみ、竹の切り株、捨てられた空きかんやインスタントラーメンの入れ物などに、雨が降って、水がたまっていることが、けっこうあります。そして、夏なら、のぞいてみると、たいいていボウフラがいます。

住宅地でも、庭のすみや、のき下などに、忘れられた古い茶わんや、空きかん、バケツなどがころがっていることがあり、そこに2～3センチメートルぐらい水がたまってさえいれば、ボウフラがいます。

力の発生を防ぐには、雨水のたまり場を作らない

ボウフラは、雑食性ですから生きのびる力は強く、力はどこでも発生してくるのです。力を発生させないためには、絶対に、雨水などがたまる所を作らないということになります。（監修・中山 周平）

